



阿波の国保

=Topics=

- 厚生労働大臣・国民健康保険中央会表彰
- 第三者行為求償事務研修会
- 第64回全国国保地域医療学会
- 第2回保健事業支援・評価委員会



<<別添>>

- 数字で見る国保医療費の動き(令和6年6月～令和6年8月審査分)
- 国保連合会日誌(令和6年8月1日～令和6年10月31日)

令和6年度厚生労働大臣・国民健康保険中央会表彰

—永年の功績により晴れの栄誉に輝く—

厚生労働大臣表彰被表彰者

徳島県国民健康保険診療報酬審査委員会委員

佐久間 淑行

徳島県国民健康保険診療報酬審査委員会委員

島田 久夫

国民健康保険中央会表彰被表彰者

徳島県国民健康保険診療報酬審査委員会委員

八木 淑之

徳島県国民健康保険団体連合会介護給付費等
審査委員会委員

美馬 一彦

上勝町住民課長

清井 信子

第三者行為求償事務の取組強化に向けて

—第三者行為求償事務研修会—

令和6年9月6日、国保会館で第三者行為求償事務研修会を徳島県と共催で開催しました。この研修会は、保険財政の健全化・安定化を図る上で重要な柱の1つである第三者行為求償事務の担当職員の資質向上を図ることを目的として毎年開催しています。

開催にあたり、徳島県保健福祉部健康寿命推進課国保運営室 橋本 晋作 室長（仁田 真希 徳島県保健福祉部健康寿命推進課国保運営室 係長 代読）は「市町村の皆様においては、保険給付や保険料の決定・徴収など様々な事務を担っていただいているところだが、中でも、『第三者行為求償事務』については、保険給付費の適正化を図る重要な柱となっている。また、国においても、求償事務の取組を一層強化するため、具体的取組を示すとともに、PDCAサイクルを循環させ、継続的に取組強化を図ることが重要として、『保険者努力支援制度』においても、第三者求償の取組状況が評価指標に取り入れられている。研修会を契りあるものとし、『第三者行為求償事務』の取組を強化していただきたい」と挨拶しました。

続いて本会の富永事務局長が挨拶し、「本会の第三者行為求償事務は、全国に先駆け保険者事務共同事業として実施しており、第三者行為求償事務の取組強化として、令和4年8月から負傷原因調査事務を開始し、令和7年4月から地方単独事業にかかる求償支援を予定している。第三者行為求償事務は、保険者による適切な給付という観点から重要な事務であり、今後も保険者の皆様と一層の連携と協力体制を構築し、求償事務を推進しなければならないと考えている」と述べました。

その後、鈴木 彰人国民健康保険第三者行為求償事務アドバイザー（愛媛県国民健康保険団体連合会職員、元国保中央会企画部）を講師に「第三者行為求償の実務と取組強化について」と題した講演を行い、第三者行為求償事務の概要や事務の流れ、関係法令をわかりやすく説明し、保険者努力支援制度の取組評価が低い徳島県の状況をふまえた更なる取組強化の必要性を述べられました。

最後に、事務連絡として徳島県保健福祉部健康寿命推進課国保運営室から保険者努力支援制度について、本会保険者支援課求償係から第三者行為求償事務の留意点等について説明しました。

.....

地域医療学会発祥の地で 地域づくりと地域包括ケアについて考える

—第64回全国国保地域医療学会—

令和6年10月4日、5日の2日間、岩手県の「いわて県民情報交流センター アイーナ」にて「第64回全国国保地域医療学会」が開催され、徳島県から14名が参加しました。

1日目は、開会式の後、次のとおり特別講演と教育セミナーが開催されました。

【特別講演1】

演 題 国保地域医療学会の礎～岩手県地域医療研究会の歩み

講 師 佐藤 元美(岩手県:一関市病院事業管理者
前岩手県地域医療研究会長)

【特別講演2】

演 題 ブラックホールの謎に迫る

講 師 本間 希樹(国立天文台 水沢 VLBI 観測所長/教授)

【教育セミナー1】

演 題 最後まで自分らしく「生きる」(仮)

講 師 太田 宣承(碧祥寺住職
社会福祉法人光寿会理事長
特別養護老人ホーム光寿苑苑長)

【教育セミナー2】

演 題 オンライン資格確認はデータヘルスの基盤、医療 DX の根幹
～マイナンバーカードとマイナ保険証～

講 師 植松 賢(国民健康保険中央会
保健福祉部長兼医療保険情報提供等実施機関担当室長)

【教育セミナー3】

演 題 総合診療医の役割と期待

講 師 下 沖 収(岩手医科大学医学部総合診療医学講座教授
岩手医科大学附属内丸メディカルセンター長)

午後からは国保直診開設者サミットが開催され、「生涯を住み慣れた地域で過ごすために～自治体と国保直診で構築する地域包括ケア体制～」をテーマに、意見交換が行われました。

2日目は「高齢・人口減社会における過疎地での地域包括ケア体制のあり方～国保直診に求められる役割とデジタル化の推進～」をテーマにしたシンポジウムからはじまり、3名の発言者がそれぞれの立場から地域医療における人材育成の実態や課題について発表しました。

また、学会開催中の2日間にわたり「口演発表」と「ポスター発表」の2つの形式で研究発表が行われました。徳島県からは2名が次のとおり口演発表を行いました。

< 1日目 >

- ◇「当院における新生児の出生体重と母の BMI の関係について」
知 野 広 美(つるぎ町立半田病院)

< 2日目 >

- ◇「リハビリテーション診療導入9年目に思うこと」
本 田 壮 一(美波町国民健康保険美波病院)

< 全国国保地域医療学会とは >

国民健康保険制度並びに地域包括医療・ケアの理念に則り、国民健康保険診療施設関係者が参集し、地域医療及び地域包括ケアの実践の方途を探究するとともに、相互理解と研鑽を図ることを目的に毎年開催されています。



第3期データヘルス計画を実行するための保険者個別支援

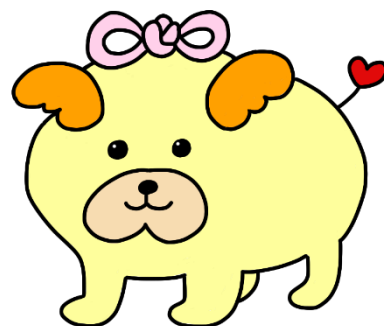
－ 第2回保健事業支援・評価委員会 －

令和6年9月20日、徳島県国保連合会保健事業支援・評価委員会(第2回)を国保会館3階研修室で開催しました。

今年度は、令和5年度に策定した第3期データヘルス計画(令和6年から11年の6年間)を実践していくスタートの年で、各保険者は策定計画に沿って、特定健診・特定保健指導を軸に糖尿病や高血圧から引き起こされる血管障害による虚血性心疾患(急性心筋梗塞等)や脳血管疾患(脳出血・脳梗塞)等の生活習慣病の予防に向けて、地域の健康課題の改善をめざし取組みを進めていきます。

第2回委員会は、徳島市・美馬市・三好市を対象に委員等による個別支援を実施しました。3市が報告した課題は、各ライフステージにおける肥満の問題、糖尿病性腎症予防、CKD および新規透析阻止についての内容で、現状分析した資料を基に保健事業担当者と委員がディスカッションし、委員から効果的な取組みにつながるためのアドバイスを受けました。医療保険者として、健診・医療の現状を的確につかみ、優先的に取り組むべき課題を計画化して実行することは、地域住民の方との約束です。

本会も、地域保健事業の一助となるよう、保険者個々の支援に力を入れてまいります。



<<別添PDF>>

数字で見る国保医療費の動き(令和6年6月～令和6年8月審査分)

国保連合会日誌(令和6年8月1日～令和6年10月31日)

